

家事動線やデザインに 女性らしい感性を發揮

井上 なおみさん

株式会社ロビン



電気設計の仕事を手がける父親の図面作成を中学時代から手伝っていた井上さん。「仕事にするなら建築の設計を」と建築士を志したそう。

自 身も子育て中の主婦である井上さん。リフォームの主導役となることが多い奥さまが重視するキッチン周りの家事動線は、井上さんも設計時に重視。キッチンからリビングあるいは和室へと視線が広く行き渡るようにし、同時に光や風を最大限取り込める設計を心がける。もちろん、できるだけ多く欲しい収納スペースも、要所所で確保。「最近のお施主様は、明確な空間イメージをお持ちの方が多く、提示された雑誌などのイメージに合わせて、使用する素材や照明器具などを具体的に提案してします」と井上さん。収納する調理器具の寸法に合わせたオーダーキッチンや、かわいいタイルを効果的に使ったトイレ、垂れ壁にアールを取り入れて柔らかい印象の空間に仕上げるなど、女性らしい感性を生かしたリフォームは、多くの施主から好評を得ている。



もともと押し入れだったところに、「見せる収納」を造作。表面に鮮やかなオレンジ色のタイルを貼った手洗いカウンター。



全面にパイン材を使った木の温もりが感じられる空間。キッチン動線を考え、すぐ料理などが運べるようキッチンの側にダイニングテーブルを配置。リビングとダイニングをつながりある空間にするため、階段の形状を工夫した。

My favorite

3人の子もたちと季節ごとの遊びを満喫



仕事と家庭を両立中の井上さん。1歳・4歳・6歳の子もたちと、春は芝生の公園へ行くなど、自然の中で季節ごとのいろいろな遊びを楽しんでいるとのこと。着付けも好きで、卒園式や入学式といった行事の時には和服で参加しているそう。

My prejudice

あらゆる手段でイメージを具体的に共有



「できるだけお施主様の想いやイメージを大切に設計したい」と、3Dパースや模型などを使って具体的にイメージを共有。寄せられる要望が設計上難しい場合でも、その要望実現に近づけるための提案を積極的に行うようにしている。

